

所長あいさつ

宮城教育大学 教授・哲学

川崎 惣一



宮城教育大学上廣倫理教育アカデミーは公益財団法人上廣倫理財団のサポートのもと、「探究の対話 (p4c)」を学校現場に普及させ、さらに発展・深化させていくことで、地域の教育活動に貢献することをミッションとしております。

この「探究の対話 (p4c)」は、子どもたちが対話を通じて「聴く・話す・考える・問う」という力をはぐくむことのできる実践であり、これを教育活動のなかに取り入れることで「主体的・対話的で深い学び」を効果的に実現することができます。「探究の対話 (p4c)」はさらに、セーフティのある集団づくりを通じて、子どもたちの自己肯定感を高めることや、よりよい学級経営にも寄与してくれます。

次期の「学習指導要領」では「基本的な考え方」として、「主体的・対話的で深い学び」のほかに「多様性の包摂」が新たに設定されます。子どもたちの多様な個性や特性を認め、受け入れながら、子どもたちの個性が輝く教育を実現すること、これはまさしく「探究の対話 (p4c)」の目指してきたものに他ありません。

これからも、所員が一丸となって、さらなる活動の充実を目指していく所存です。

令和8年度 上廣倫理教育アカデミースタッフ

所長：川崎 惣一（宮城教育大学教授・哲学）

副所長：田辺 泰宏

プロジェクトメンバー（川崎惣一所長を含む5名）：

佐藤 哲也（宮城教育大学教授・幼児教育学）

久保 順也（宮城教育大学教授・臨床心理学）

熊谷 亮（宮城教育大学准教授・特別支援教育、学校心理学）

飯島 典子（宮城教育大学教授・幼児教育学）

特任教授：菅原 弘一 成瀬 啓

教育支援コーディネーター：

又木 潤 岡田 雅彦 鳩原 淳子

松田 修一 成瀬 陽子

事務補佐：高橋 かおり

宮城教育大学上廣倫理教育アカデミーは、セーフティを作りながら、問い、考え、対話する力を、先生・子ども・地域みんなで育てるお手伝いをしています。どうぞお気軽に、お問い合わせください。

TEL.022-214-3611（9：00～16：00）

①申し込み～実施までの流れ

ホームページ・お電話でのお問い合わせ

打ち合わせ（実施内容、日程調整）

出前授業（職員研修、学校、学年ごとなど）

教員の支援

②アカデミーの支援内容例

①職員研修約90分

②児童生徒への出前授業約90分、職員との振り返り

③担任による授業実践、振り返りなど

ご相談をもとに支援計画を立てます。

①学校での授業サポート

幼稚園・保育所から小・中・高等学校、特別支援学校まで、現場にお伺いし、「探究の対話 (p4c)」の授業を一緒に行います。子どもたちが自分で問いを見つけ、安心して考えを語り合える時間を大切にしています。

②先生方・団体向けの研修

「探究の対話 (p4c)」を「やってみたい」「もっと知りたい」という先生方や団体のみなさまに向けて、研修会を行っています。対話の進め方や授業作りのコツを、分かりやすく、実践的にお伝えします。

③体験できるワークショップ

研修会やイベントなどで、「探究の対話 (p4c)」を気軽に体験できるワークショップを実施しています。はじめての方でも安心して参加でき、対話の楽しさや広がりを感じていただけます。

本アカデミーにつきましては、右下のQRコードから本アカデミーのホームページをご覧ください。

お問合せ先

国立大学法人宮城教育大学 上廣倫理教育アカデミー

〒980-0845 宮城県仙台市青葉区荒巻青葉149

TEL:022-214-3611 FAX:022-214-3751

H.P: <http://p4c-miyagi.com>



2026年4月発行

philosophy for children

宮城教育大学

上廣倫理教育アカデミー

「探究の対話 (p4c)」という学び

「探究の対話 (p4c)」は、探究の源である「問い」を大切にしています。「不思議だな」「知りたいな」という全ての人の中にある「問い」について、安全で安心な空間で参加者が対話を進め内容について考えを広めたり深めたりします。

学長あいさつ

宮城教育大学 学長

松岡 尚敏



大学での学びは、高等学校までの「学習」という言葉に替えて「学修」という言葉が使われます。この言葉の中には、「自ら問いを見いだし、主体的に学ぶ」とか「答えのない課題に対して多面的・多角的に探究する」「他者と協働しながら新たな価値を創造する」といった学びの姿が含まれています。

宮城教育大学では、2017年4月、公益財団法人上廣倫理財団のご支援をいただき、寄付教育研究組織として上廣倫理教育アカデミーを設置し、自分で問いを立て、対話を通して互いの考えを深めていく「探究の対話 (p4c)」の実践・研究に取り組んでいます。令和3年に示された中央教育審議会答申「令和の日本型学校教育」では、個別最適学びと協働的な学びが、今後の学びの方向として示されました。この二つを繋いで一体化していくための有効な教育的アプローチとして「探究の対話 (p4c)」は、大きな役割を果たすことができると期待しております。

今後も「探究の対話 (p4c)」を通して、学校現場での実践を支援するとともに、これからの教育を担う高い資質を有する教員の養成に尽力していく所存です。

アカデミーの歴史

2011年3月11日東日本大震災発生後、宮城教育大学では、子どもたちの心のケアを重要な課題と認識し、その対応について模索していました。2年後、ハワイ大学の先生が被災地を訪問して実践した「子どものための哲学 (p4c)」は、子どもたちの心を癒し解放する効果があると確信しました。

2017年4月に誕生した「上廣倫理教育アカデミー」は、公益財団法人上廣倫理財団の支援を受け、前身の「上廣倫理・哲学教育研究室」から、さらに活動の充実と発展を図るべく改組・設立された機関です。学校現場等への探究の対話 (p4c) の理論や実践を紹介・支援するとともに、将来教壇に立つ学生や現職教員への積極的な啓発に取り組んでいます。

本アカデミーの目的

教員養成及び学校教育における「探究の対話(p4c)」について研究すると共に、その成果を活用した研修の機会を、宮城県をはじめとする地域の教育関係者に提供する。このことにより、本学の学生の主体的・対話的な学びの力と教員としての資質能力の育成、並びに学校等の教育活動における「探究の対話(p4c)」の充実に寄与することを目的とする。

第2期基本方針

主な事業として、以下の7事業を行う。

- (1) 運営事業
- (2) 主催研修事業
- (3) 広報事業
- (4) 重点事業
- (5) 大学連携事業
- (6) 教育委員会連携事業
- (7) 要請研修事業

「探究の対話(p4c)」とは

- ハワイ大学のトーマス・ジャクソン博士が考案し、学校教育に取り入れたp4c(philosophy for children)を基盤としています。
- 「不思議だなあ」「知りたいなあ」という子どもの問いについて対話します。様々な視点を通して、**答えを掘り下げていく**ことから、「**探究の対話(p4c)**」と名付けました。

子どもにどんな「力」が付くの？

① 聴いてもらえることで

自己肯定感や他者を大切にできる気持ち、より良く人と関わろうとする心が育っていきます。

② 問いを大切にすることで

- ・ 主体的に学び、「問い」を立てる力をはぐくむ中で、学びへの好奇心や探究心も引き出していきます。
- ・ 自分から学ぼうとする力や問いを生み出す力が育っていきます。

③ 顔を見て話すことで

コミュニケーション力や聴く力、対話する力、考える力をはぐくむとともに、他者理解や自己理解も深まることにつながります。

本アカデミーの活動

主催研修事業

- 「探究の対話(p4c)」研究会の開催
毎年12月 基調提案・講演、パネルディスカッション・ラウンドテーブル
- 「探究の対話(p4c)」実践発表会の開催
8月に実践者からの話題提供、研究発表・協議
- オンライン研修会
年6回程度、オンライン開催、話題提供・対話での情報共有
- ハワイ大学ウエヒロ哲学倫理教育アカデミーとの定例ミーティング
定期的なZoomミーティング、実践や研究の交流
- 日米教員交流研修
日米教員の実践視察と教員交流、国内教員ハワイ派遣・ハワイ大学関係者訪日
- 「探究の対話(p4c)」ふれあいデー
仙台市内の社会教育施設(R7仙台市科学館)との連携事業

令和8年度重点事業

- 学校課題解決への支援
学級経営、いじめ・不登校対策、特別支援教育での「探究の対話(p4c)」
- 連携・協力校における「探究の対話(p4c)」の推進
重点化による充実した研修
- pネットワークの構築と推進
「探究の対話(p4c)」を実践している先生方と学校経営に取り入れている校長先生方のネットワーク
- 「探究の対話(p4c)」とICT教育
情報モラル教育、「探究の対話(p4c)」へのICT導入
- コミュニティ・スクールにおける「探究の対話(p4c)」の活用

大学や教育委員会との連携

- 大学や教育委員会との連携
学生活動支援事業、自主ゼミ(Pすく〜)の活動支援
教育体験初年次演習(1年次)教員養成支援事業
公開教員研修、大学内講義連携等
- 教育委員会連携事業
宮城県内教育行政(仙台市、白石市、山元町、加美町、蔵王町等)との連携



「探究の対話(p4c)」で、大切にしていること

「探究の対話(p4c)」では「**聴く・考える・話す**」「**4つのルール**」「**コミュニティボール**」の3点を大切にしています。

- これら3点をしっかり意識しながら対話を積み重ねていくことで、子どもたちの「**非認知能力**」(目標に向かって頑張る力、人とうまく関わる力、感情をコントロールする力等)の向上が見込まれます。
- 様々な教育活動を展開するにあたっては、学級の中に「**安心・安全**」な環境を作る必要があります。「探究の対話(p4c)」が大切にしている3点は、**セーフティのあるコミュニティ**を構築するのに寄与してくれます。特に、子どもたちの間に「**何でも話せる**」という「**知的セーフティ**」が形成されることで、子どもたちの道徳性がはぐくまれるとともに、各教科の学びが深まることによる学力の向上が期待されます。

聴く・考える・話す



- 特に「**聴く**」ことを大事にしています。「**目**」と「**心**」で聞くことができる子どもを育てたいと考えています。
- 先生や友達の話を「**聴く**」力が付くことで、友達を認める力が付くことが期待できます。このことは同時により良い人間関係の構築につながります。
- また、話し手にとっても、聴いてもらえることで**自己肯定感**や、学級の中での**自己存在感**もはぐくまれます。

4つのルール

ボールを持った人だけが話せる

まだ話していない人にボールをわたす

パスができる

ともだちがいやがることは言わない

- 「探究の対話(p4c)」では、**4つのルール**を大切にしています。このルールは学校生活全てに通じるものです。
- 「**友達が嫌がることは言わない**」を最も大切にしています。
- このルールを意識することで、**感情をコントロールする力**の向上が期待できます。

コミュニティボール



- 「**コミュニティボール**」を全員で作製し、世界でたった一つのみんなの物であることを大切にしています。
- このボールを学級のマスコットとして大切にすることで、**優しさ**や**思いやり**が学級全体に広がっていきます。
- 日常の授業や朝の会等でもボールを持つことで、「探究の対話(p4c)」で大切にしていることが意識され、セーフティな環境で発言しやすくなります。